



— つながる とき・ひと・もの —

長崎の しあわせに学ぶ



●はじめに

長崎県立大学は、平成25年度に公募された文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に申請し、地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める優れた取り組みとして評価され採択されました。「長崎のしまに学ぶ — つながる とき・ひと・もの —」をテーマに、平成25～29年度の5年間にわたり、プロジェクトを展開します。

大学COC(Center of Community)事業

「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」とは、自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を進め、もって地域に貢献しようとする大学を、文部科学省が支援する事業です。大学は地域の中核的な存在を目指し、地域の課題解決に必要な人材、情報、技術が集約される場所となります。

長崎県内では、本学のみが選ばれました。

本学のテーマ

本学のCOC事業のテーマは「長崎のしまに学ぶ — つながる とき・ひと・もの —」です。「しま」は、急激な人口減少をはじめ、今後日本中で生じるであろう問題に早くも直面しています。

これらの問題にグローバルな視野をもち、かつ地域課題に主体的に取り組み解決できる人材を育成します。また、大学が「しま」に学んだ成果は、地域における人材育成や産業振興等を通じて地域に還すことを目的としています。

●取組内容

教育

- 全学的なカリキュラム改革と学部学科再編を含む教育課程の改革を行います。さらに、教育の質的転換を図るため講義科目にアクティブラーニングを導入し、課題解決型教育を実践します。
- 学生の課題探求能力や問題解決力を涵養する教育プログラムである「しま体験教育プログラム」を全学生必修とし、すべての学生が、「しま」のことを学び、「しま」でのフィールドワークを行います。
- 「長崎・しま」をキーワードとする全学教育科目を配置し、学部ごとに「しま」や地域に焦点を当てた専門科目を整備することで、全学共通科目から専門科目へと切れ目なく地域を志向した履修モデルを構築します。

研究

- 長崎の地理的、歴史的特徴を踏まえた重点課題研究を設定し、研究費の配分など研究向上のための支援を行います。
- 地域が求める政策課題に関する研究に積極的に取り組み、提言を行います。また、教員が行う地域課題等の研究成果を教育へ有効に活用し、教育の質向上に努めます。
- 地域社会へ多くの研究成果を積極的に還元するため、知的財産の創出・管理・技術移転への取組・支援体制を強化します。
- 地域活性化や地域課題への対応のため、地域の企業、研究機関、自治体との交流を深めることにより、産学官連携を推進します。

社会貢献

- 地域公開講座や学術講演会等を開催することで、教育研究の成果を地域社会に還元します。
- 高校生への出前講義や本学学生と高校生との交流による高大連携を推進します。
- 本学学生が地域の小中学生や高齢の方とも積極的に交流を行い、地域活性化を図ります。
- サテライトキャンパスの整備や大学と地域をつなぐテレビ会議システムを活用した講座等を行うことで、地域の生涯学習拠点機能を強化します。
- 学生のフィールドワークの成果を地域の自治体に提言したり、地域住民と意見交換を行ったりすることにより、地域再生・活性化に結び付けます。

●長崎のしまに学ぶ — つながる とき・ひと・もの — 【概要図】

大学では

- 学長のトップマネジメントを強化し、大学の重要課題に的確かつ機動的に対応するために、重要課題毎のプロジェクトチームを編成し、大学改革を推進します。また、研究については学長の主導のもと、「しま」や長崎の地域課題を重点化します。
- 全学的にグローバルな視野をもち、かつ地域課題に主体的に取り組み解決できる人材育成を主眼とした地域志向のカリキュラム改革を行い、学部学科再編に取り組みます。授業方法にアクティブラーニングを取り入れ、主体的な学習を促すとともに、モバイルラーニングを導入し学習を支援します。
- フィールドワークの拠点として地域にサテライトキャンパスを設置し、出前講義、eラーニングにより生涯教育・地域協働の人材育成の拠点、子育てや高齢者の居場所としても活用します。



地域では

- 教職員・学生が、全員地域に出向くことにより、交流人口の拡大や活性化に貢献します。
- 大学が地域を「つなげる」役割を果たすとともに、とき(伝統・文化)を理解し、ひと(住民・学生)、もの(特産品等)の動きを活性化させ、地域課題の解決を図ります。
- 広域的な視点で諸課題の解決を図るとともに、成功した取組事例は県内の他地域に普及します。

● 本学独自のプログラム「しま体験教育プログラム」

県立の大学として地域に貢献するため、離島が多い長崎県の特徴を活かし、「しま」を第3のキャンパスと位置づけました。平成25年度までに県内5市3町と連携協定等を締結し、各地域での「しま体験教育プログラム」の実施に向けた準備を行っています。学生は、事前学習を行った上で、フィールドワークとして「しま」を訪問し、現地での生活や人々との交流のなかで、実践的な学習を積み重ねていきます。学習成果については、発表会等を通じて地域へ提案を行います。

この取り組みで、学生が課題を発見し解決する能力、主体的に行動する能力、チームでディスカッションし発信する能力等を身につけ、社会人基礎力を涵養します。

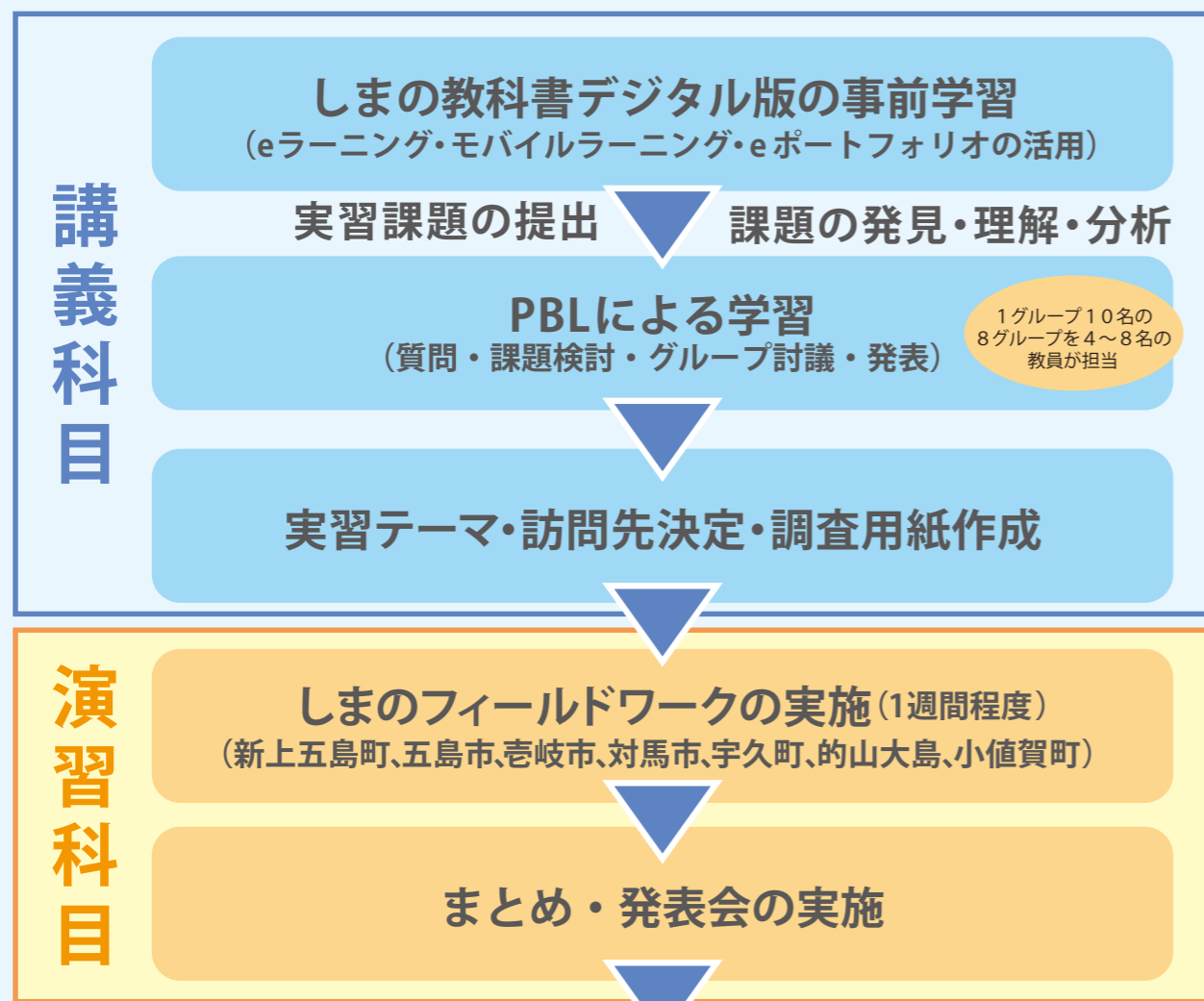
「しま体験教育プログラム」イメージ

科目群名 | **全学教育科目「しまを学ぶ」**

科目名
単位数 | **講義科目「長崎のしまに学ぶ」2単位(必修)**
演習科目「しまのフィールドワーク」2単位(必修)

(※平成28年度より全学部必修)

担当教員 | **専任教員全員(共通シラバス・指導マニュアル作成のもと実施)**



専門科目による深い学びへ繋ぐ

● COCプロジェクト推進体制

COCプロジェクト推進本部

本部長：学長
副本部長：副学長(COC担当)

(構成員)

- ・学長
- ・副学長
- ・学部長
- ・学生部長
- ・シーボルト校学生部長
- ・地域連携センター長
- ・教育開発センター長
- ・教務委員会委員長
- ・大学事務局長
- ・シーボルト校事務局長

(業務)

- ①事業の実施に関すること
- ②事業の予算及び決算に関すること
- ③地域志向の教育及び研究に関すること
- ④地域との連携に関すること
- ⑤文部科学省への報告等に関すること
- ⑥COCプロジェクト評価委員会への報告に関すること
- ⑦その他事業に関すること



COCプロジェクト連絡会議

(構成員)

- ・推進本部副本部長
- ・連携協定等を締結している自治体が推薦する者 各1名
- ・企画広報課長
- ・シーボルト校総務企画課長
- ・その他議長が必要と認めた者

(業務)

- ①事業推進にかかる各自治体と大学間の連絡及び調整に関すること
- ②COCプロジェクト推進本部への要望や意見の取りまとめに関すること
- ③その他、本学と地域との連携を円滑に推進するために必要なこと

COCプロジェクト評価委員会

(構成員)

- ・外部有識者 2名
- ・大学運営に関心を有する者であって、公募により選ばれた者 1名
- ・長崎県知事が推薦する者 1名
- ・連携協定等を締結している市町長が推薦する者 1名
- ・学長の指名する教職員 若干名
- ・その他学長が必要と認めた者

(業務)

- ①事業内容の評価及び提言に関すること



●連携自治体について

地域と大学の相互の資源を活用し、本学が「地(知)の拠点」として研究や地域貢献活動を行うため、平成 25 年度までに県内5市3町と連携協定等を締結しています。地域の抱える様々な課題に関して、地域と大学が協働して解決していきます。



 佐世保校

経済学部

〒858-8580

長崎県佐世保市川下町123

●企画広報課 ●

TEL 0956-47-5856/FAX 0956-47-8047

 シーボルト校

国際情報学部

看護栄養学部

〒851-2195

長崎県西彼杵郡長与町まなび野1-1-1

●総務企画課 ●

TEL 095-813-5500/FAX 095-813-5220